

犯罪被害者支援の充実を求める意見書の提出について

犯罪被害者支援の充実を求める意見書を次のとおり提出する。

令和2年12月10日提出

提出者 市会議員 井上 よしひろ ほか41名  
自民党市議団、公明党市議団、  
京都党市議団、日本維新の会市議団、  
無所属

令和 年 月 日

衆議院議長，参議院議長，内閣総理大臣，  
総務大臣，法務大臣，  
国家公安委員会委員長 宛て

京都市会議長 名

犯罪被害者支援の充実を求める意見書

2004年に犯罪被害者等基本法が成立し、犯罪被害者は「個人の尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利」の主体であることが宣言され、犯罪被害者支援施策は一定の前進を果たした。しかしながら、犯罪被害者の多種多様なニーズに応えられるだけの整備は、いまだ十分になされているとは言い難い。

例えば、被害直後から公費によって弁護士の支援を受ける制度や、国による損害の補償制度といった、財政支援を必要とする施策はいまだに実現されていない。

また、犯罪被害者支援条例の制定や、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの設立といった施策も、地域によって大きな格差を残している。

京都市では、2011年に政令市の中でいち早く施行した京都市犯罪被害者等支援条例に基づき、京都犯罪被害者支援センターにワンストップの総合相談窓口を設置し、当座の生活に困窮した犯罪被害者等に生活資金を給付する事業を行うほか、犯罪被害者やその御家族・御遺族に寄り添った、中長期にわたる支援を行っている。

犯罪被害者の権利に対応して、国は、たゆまず支援施策の充実を進めていく責務を負っており、よって国におかれては、犯罪被害者支援の充実を図るため下記の事項を実施するよう強く要望する。

記

- 1 犯罪被害者が、民事訴訟等を通じて迅速かつ確実に損害の賠償を受けられるよう、損害回復の実効性を確保するための必要な措置を講じること。
- 2 犯罪被害者に対する経済的支援を充実させるとともに、手続的な負担を軽減する施策を講じること。
- 3 犯罪被害者の誰もが、事件発生直後から弁護士による法的支援を受けられるよう、公費による被害者支援弁護士制度を創設すること。

- 4 性犯罪・性暴力被害者のための病院拠点型ワンストップ支援センターを、都道府県に最低1箇所は設立し、人的・財政的支援を行うこと。
- 5 地域の状況に応じた犯罪被害者支援施策を実施するため、全ての地方公共団体において、犯罪被害者支援条例が制定できるよう支援すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。